

令和元年度中国・遼寧省派遣交流職員レポート②
～遼寧省内の観光スポットについて～

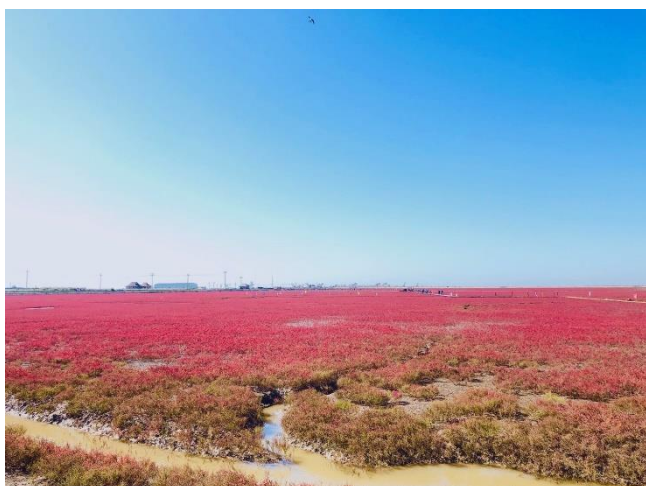
你好！こんにちは！今回は、遼寧省内の隠れた観光スポットをご紹介します。遼寧省といえば、清朝発祥の地で現在も中国東北地区の中心都市である瀋陽と、日系企業が多数進出する経済都市の大連が有名です。省内にはこの2つの都市のほかに12の市があり、それぞれの地域に様々な魅力があります。私が実際に訪問して思い出深かった3つの都市について紹介します。



○盤錦（ばんきん）市

盤錦市は渤海に面した港湾都市です。中国最大級の油田を有し石油化学工業が発達する一方で、自然環境も豊かです。遼寧省の名前の由来にもなった「遼河」は、盤錦市内で渤海へ流れ出ます。川と海によって湿地が形成され、タンチョウヅルの飛来地として知られています。豊富な水や自然を生かして農業も盛んで、コメと河蟹が特産品です。特にコメはそのおいしさから代々中国皇帝に献上されたため、現在も「盤錦米」は中国で人気です。そのため盤錦は「湿地の都」「鶴の里」「魚と米の郷」と呼ばれています。

盤錦市最大の観光地は「紅海灘（レッドビーチ）」です。湿地に自生する葦の一種（マツナ）が秋になると真っ赤に色づき、赤い海のように見えることから、その名で呼ばれています。私も2019年9月中旬に盤錦へ遊びに行きました。ちょうど見頃を迎えており、大地が燃え上がるような絶景でした。付近には田んぼアートやコスモス畑もあり、旅行者を飽きさせません。マツナを餡に入れた餃子や特産の河蟹料理なども味わうことができ、大満足でした。高速鉄道（中国の新幹線）を利用すれば瀋陽から日帰りできるので、秋に遼寧省を訪れた際は必見のスポットです。



紅海灘（レッドビーチ）



マツナ館の餃子と河蟹の素揚げ



四方に広がる田んぼ



田んぼアート

○遼陽（りょうよう）市

遼陽市は遼寧省の中部に位置し、戦国時代から 2400 年近い歴史を有する都市です。中国・東北地区で最も早く建設され、紀元前 3 世紀から 17 世紀までずっと東北地区の政治、経済、文化、交通、軍事の中心地であった古都です。市内には史跡が多く残され、郊外の弓長嶺区は温泉リゾートで有名です。

遼陽観光のハイライトは、広佑寺と白塔です。後漢の時代に成立した広佑寺は、中国の仏教伝来初期から存在する寺院の一つです。東北地方最大の仏教寺院であるとともに、当時の政治文化の中心としての役割を担いました。一番の見どころは石造りの門と仏像です。高さ約 17 メートル、長さ約 34 メートルの門は、95 の巨石を彫って作られたもので、世界最大の青石作りのアーチとされています。5 つのアーチが並んでいますが、1 つずつ金運や仕事運などを司っており、各アーチを通り抜けた人はそれぞれの運気がアップするそうです。本殿には、金メッキされた木造の大仏座像があります。高さはおおよそ 20 メートルで、大仏の広げた掌の上には大人 8 人が立てるほど大きいです。金 24 キログラムを使って装飾した大仏は全体が光輝いて華やかです。その他、広佑寺には世界最大の青銅の香炉があることでも有名です。

白塔は 14 世紀の遼代に建てられた舍利塔で、現在も当時の風格を残しています。高さはおおよそ 70 メ

ートル、底面は八角形で13層連なった白いレンガ造りの塔で、かつては東北地区一の高塔でした。仏教建築であるため、塔の側面には仏の姿が精緻に彫り込まれています。広佑寺と白塔のどちらも遼陽駅の程近くにあり、隣接しています。瀋陽から遼陽まで高速鉄道で30分程度の距離なので、瀋陽旅行の際に立ち寄ってみるのもお勧めです。



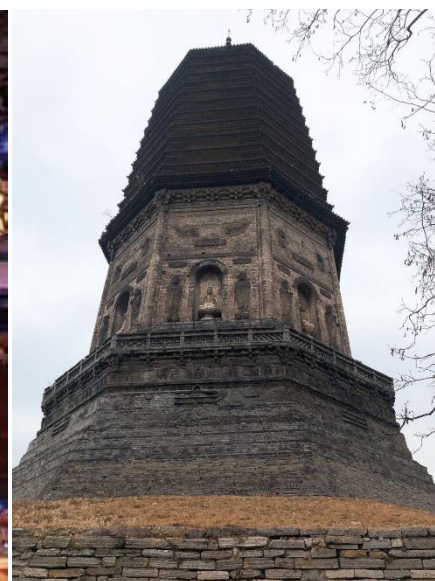
広佑寺の外観



広佑寺の石造りの門



広佑寺の大仏（百度百科から転載）



遼陽白塔

○葫蘆島（ころとう）市

葫蘆島市は遼寧省の最西部に位置し、北京（華北地区）から東北への玄関口となる交通の要衝です。あまり馴染みがない地名かもしれませんが、第二次世界大戦後、105万人もの満州移民が葫蘆島港から引き揚げたため、日本との交流の歴史が長い都市の一つです。遼寧省内で大連に次いで海岸線が長く、良質な海水浴場があるので夏が賑わいます。造船業、石油化学工業、水産加工業などのほか、水着の生産で有名です。市内には「ピキニ広場」と呼ばれる屋外施設があり、上空から見ると水着の形をしています。2011年から毎年8月に、このピキニ広場において国際水着展のイベントが開催されるとのことです。



ピキニ広場の全景（新浪遼寧から転載）

私が葫蘆島を訪れたのは2019年12月だったので、人出は少なく落ち着いていました。「龍回頭」という展望台から葫蘆島市街地を一望すると、青い海と空がどこまでも広がり、リゾート地のようなのんびりとした雰囲気でした。地理的には、清が興った瀋陽と明王朝の首都・北京の中間地点に当たるので、明代の古い街並みなどの歴史的遺構が数多く残されています。

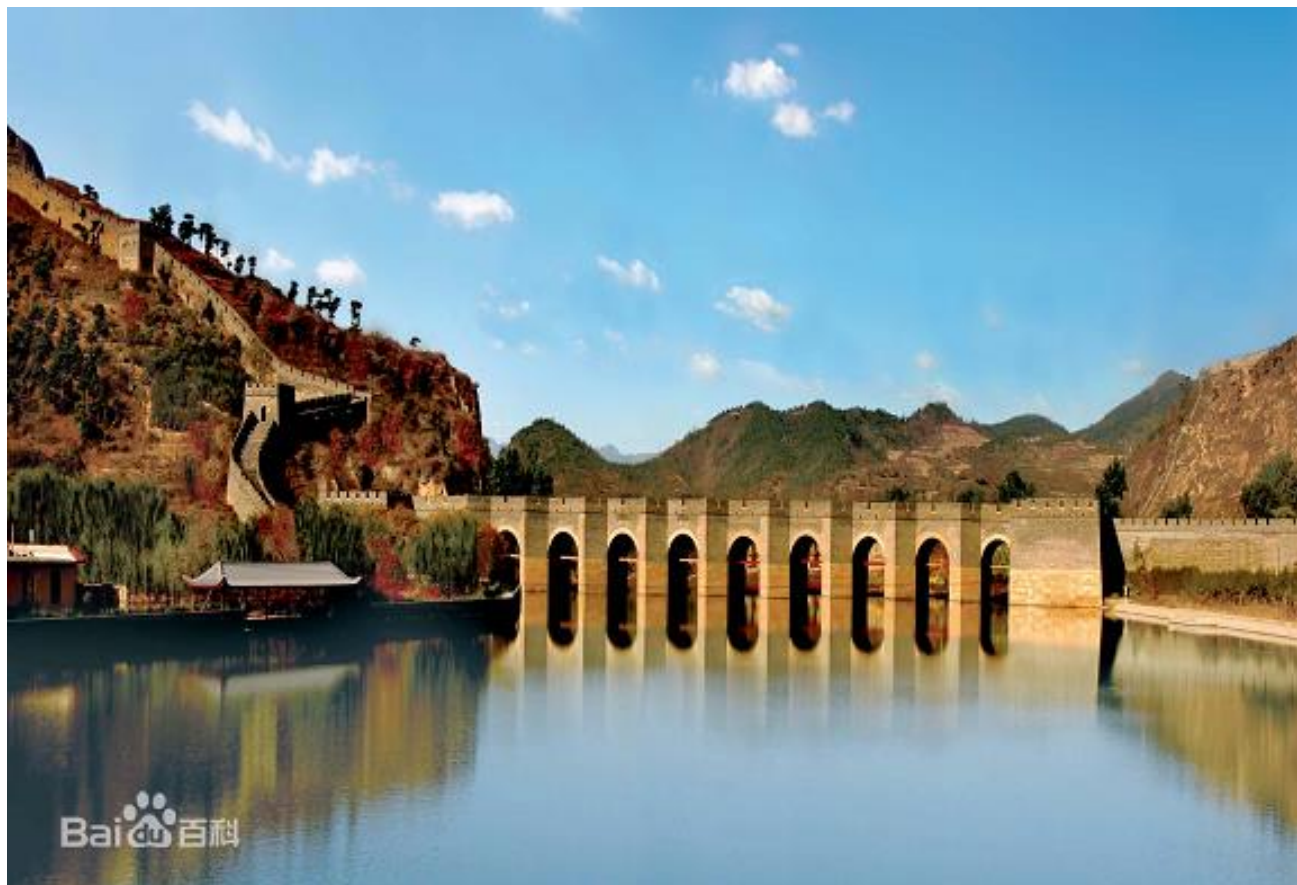


「龍回頭」からの眺望



明代から残る孔子廟「興城文廟」

また葫蘆島市最西端、河北省との境界地域には「九門口水上長城」があります。中国で唯一の川の上に建設された万里の長城で、世界遺産に登録されています。万里の長城が築かれていることから分かる通り、遼寧省を含む東北地区は中国歴代の王朝にとっては異民族が支配する「外国」でした。漢民族王朝と異民族との「国境」に思いを馳せながら葫蘆島を観光すると、中国の歴史・文化への理解が一層深まると思います。



九門口水上長城（百度百科より転載）

以上が、遼寧省の地方都市にある観光名所です。「百聞不如一見」という諺にもあるとおり、皆様も是非一度訪問し自分自身で現地の魅力を体験してみてください！